

• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

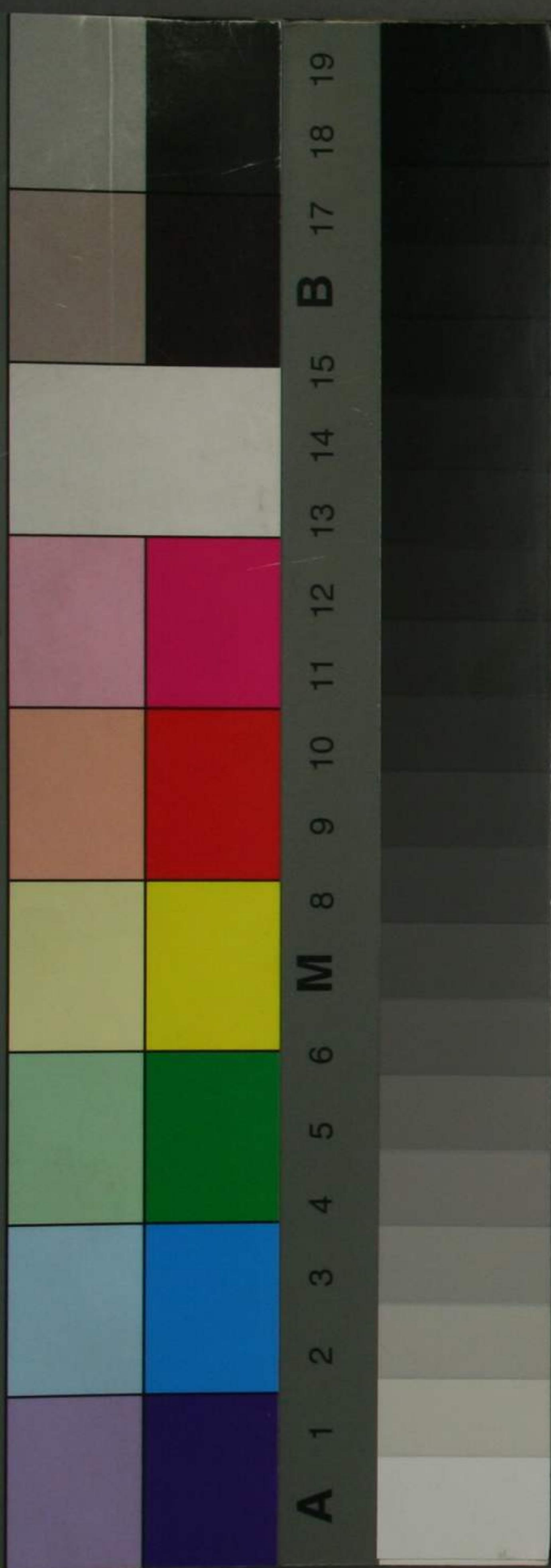


大行

五釋

三

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



600
246

南總里見八犬傳第五輯卷之三

東都 曲亭主人編次

第四十三回

羣小を射て豪傑法場を開く
義士を渡して俠輔河水に投む

却説丁田町進ハ大塚の里老ホを召よせ。卒川菴ハそつとひきゆう。墓六が小廻額藏ハ主の夫婦を害し。逆惡既に明白。ひんや又前陣代主役を犯したる。圓塚山の傍らうやく夥の人を殺し。その罪戻一ふあは。これより彼罪人ハ明日極刑。處せり。背介ハひゆう日身。あうまされば。今ま。罪科の沙汰。及。ジモ裏裏。汝ホ。領措。墓六が奴婢ハ罪也。又。舊里へ放遣せ。且。墓六が。莊園ハ。その家庫。その不没。却せる券書。よろて。進呈せよ。又。墓六が妻の娘。信乃。どく。癡者。額藏。文黨。竊。まの往方。を索。而。搦捕。もん。の。ま。



とべ照らす。千慮やも亦一失あくん猶且再問再勘ありて恩赦の沙汰を願ひ
けり。とつまも果ば菴八を眼を瞪らし声あり立くあき奇怪なり奴原を額藏が
罪悪ハ景襄も背介が首伏せふ齋木をぐの證拠ありて脱身よ辭をれびづ
罪よ伏せと今まふ又誰かう向ひた彼墓六下交共ハ主の斬れし為体を露
むうも見びとらひふ又云云とひすあくまく汝が囑賂を畜て極思大辟の刑
人の首せ續せと謀るかん信乃ぐりも亦余かく彼奴の瀕路を誘ひ出でて圓塚
山あく入を殺せ。同憲の死をうハシの霄額藏が書送せし落書よりて察せる。
あゆど恩事やとて莊官よせまぬかど胡論の所望ハ民とて守を謀るの罪
輕くば再び悉捕捕く獄舎よ擊ん汝が余を惜せやと席を拍てぞ敦園。汝
權み廢れし里老ハ諫争ひくもあくねバ阿容々々と里よ來てく躰て伴の隣を衆人
皆齒を切り腕を扼り更よ又淺ひも。あくぶ事の隣を鎌倉へ告

訴へて額藏を救ひて俺們ハとの宵のみを認めるをす。ねども鞍馬濱路を
娶らんとく媒婿軍木共侶の莊官の宿所へまく酒宴にて夜を深せておゆば
趣ハ誰とぞあぬものか。もと品草へゐたるを立あましをどつまか酷
い証固あり。額藏を不救ひぬば大塚邸の冤枉ハ争へむべからず釋ん
あふ志あきみ。とく鎌倉へ赴うるを。二人が火バ又一人三人四人と散動く果ハ邁
ドといゆのす。と宣言へり。罵駢ぐを里老木推鎮やく入々不平の述懐ハ寔ナリ
ある乎あれども。後今より夜を日よ遙く鎌倉より赴たても往返三十里を餘なるを
翌ハ誅せらるゝと云彼男を救ひて世の鄙語よりてあ。長犯物やハ卷入へ
高犯物やをも届うべ一虎斃れて一虎進む。鞍上殿と丁田殿と奸曲刻薄
甲ひや。今鎌倉より推参へて領主の愁訴まればと。用捨はある端えうが實
印を陣代。額藏ハ小廝へ主の讐言を繋ひてともさぞくは罰へあらん況く

あくも誣られると今速よ解んとせ。糸井し糸急よもくも固く結ふとく人を
救ふ。身も罪せし。妻子よ歎をと送は。漫よ早りて後悔も。利害をと
諭せ。六里人。おハ只管よ愠ふ。まこと衆皆多ひとあり。余行程よ七月二日よ
あぬ。大塚邸へまんを。ひみこらひひまあそ。ひかあ。あひ。ごじぞう。ちう。ひで。
行徳を船出せ。ひ。この日巳の比及よ町進へ。巷八社平五倍ニホを廳ふ聚會。
額藏を誅戮の隊配を示す。渠ハ幻術を充たり。あく卒川生を檢監
よ。賤兵三十餘名をねぐをもく。非常を警むべ。きの里老木がも覗て。
まえあくる事情を察する。日來額藏よ魅されく。叨よ親愛まればかく
とうよ遊行ののれを禁む。人の觀ることを許さ。某も亦武者汰して城
外をうち巡り。用心かくのぞく。かく。縦額藏。幻術あつとも刑よ臨て。之術を施ふ
す。あく。坂上生。兄の讐。軍木生やハその身の仇。かひの隨よ刺苗也。といふ
みがみのあらをゆく。一淺よ及。を承諾。當下社平ハ膝を進。そ番長の遠

慮との所以あり。あれども額藏ハ檻の獸網の魚と些の法術ありとども何うとも
考へたゞ貴意を費へゆひと誇負す慰れば五倍ニも欣然と歎びと遂りと告ぐ。
あらく宿所より退りてまじく準備をもたらかんとある日も既に斜あす屠所の
翁下せあれけよ急がぬめを時の教へとてば獄舎より牽出る額藏ハ桎梏忽
やぬ縛の索端短ふるも緊く追立る五六個の獄卒と三千餘名の夥衆不稻席
如く毬きく庚申塚へ赴け、檢監卒川菴ハシ信濃麻の貞衣よ纖の段々筋の陣羽
織を表て精好の野袴よ純子の裾縁彩うと腰高よ穿下して紫金作の両刀を
跨へて綱代の塗笠を紺短よ結戴だら左右よ両個の若黨を後へて鎗柳箱床几を
もせし奴隸を後よ立て先を追してひらく梯やく程よ後方よ繞く簸上社平ら。
元身甲よ釘膚衣て袴の下を結端折せ打扮をまゝ菴ハシ旁らに就中副
佩の一刀ハ裏よ額藏が腰刀の銳刀とこそれ、社平ハこれと掠奪りてこの日も

腰よ帶よけ故あ所れ件の短刀ハ鞘ハ金の華洞あり中心不梵書の一宇銘ありそ
桐一文字と名けう便是大塚匠作三成が年来秘藏の有試物とぞ女兒龜藤小取
せし久龜藤も亦年あおこ護身刀よあくろと裏裏よ信乃を擊せをと竊か額藏
貨うて間詰休題五倍二モ衣袴太小刀まで具足ひくこの日を晴と打扮うその
装ひ社平とこれ一對あうちのく後者火短鎗竹鎗床几を持て陸続とて城を出
う既めく菴ハホハ庚申塚よ本かれ巴塚を去ると二爻許年あくろ棟の下に
ぐざくひなきえく額藏と牽居さばく三千餘名の夥兵ふるく捍棒と突合して粗糲の人を
禁やうかをかねどもあくろ觀んとぞ屋棟よ跨よ樹よ登りて眺望ちうめつと多かり
あれどもあれどもあくろ。せふきき當下卒川菴ハモ床几よ尻をうかく六獄卒ホハ額藏
守てを。菴ハこれと信とぞくやそれ額藏汝が罪科五通よ當りうよと大石殿廿
下知狀あり謹て兼れといふく呼びて懷う一通の刑書を取れて讀べられ額藏

頻々嗟嘆して戰國燒季の世とぞ火ど見も月も齊照しやふ人の心へ虎狼等と
良民を屠殺してれを名づて法度と云善を惡と云故に忠義を誣て五逆と
罵り惡を善と云故不奸曲を美と君子と称せむ。東海の孝婦誣殺
せられて遂ニ三歳の旱魃あり。杞梁妻は哭して忽地ニ城陥り。寃民の
天地を動かす。崇遠あり。汝達は是斗臂の小人ノ事アリ。足るのみ強。豺狼と
り。打城ト。大石殿の家風ア。モモロム。足るのみ果て菴ハ。怒れる
眼尻逆立く。憎む未期の擬廣言拗かひ。ソシ。床几をあひて焦燥。獄
卒ハ。重括セ。額藏が索の端を棟の枝ハ。投ク。背ハ。榦と負ひ。如レ。ものと。社平
修忽よ地をあれて。六尺わたり。引登され。背ハ。榦と負ひ。如レ。ものと。社平
五倍二八衣も袴も袴取り。褰げ。身軽の打扮物。レ。小龜甲入。腰衣の上を
高脛露して青竹の鎧。足。袂ひ猛く進む。ゆく。兩人齊一額藏を左右
丁と疾視。虐賊額藏天罰のか。セ。とハ今ちも。國土の為。ハ大犯人。あれ。る。る。
や。怒敵。三年竹の短鎧の串刺受。めつ。セ。と呼。み。う。痛い。死。額藏を屠
し。や。ぎ。く。も。る。あ。う。ぎ。よ。べ。つ。そ。ん。え。あ。。そ。ん。ド。や。ま。。あ。あ。ア。
倉の牛羊。釜中の魚鼈。三寸。息絶。れ。バ。萬事。休。ん。天日。これ。が。あ。暗。と。油雲。漠
々。あ。う。走。み。う。如。遙。これ。と。望。る。み。ハ。潜。然。と。と。目。と。拭。ふ。涙。ハ。茅。が。軒。端。が。微。
落。る。玉。水。歎。と。疑。ゑ。く。又。樹。下。の。土。を。潤。して。葉。漏。の。露。歎。と。怪。セ。一。余程。社平
五倍二八倉。竹。鎧。疏。と。素。突。と。素。拔。試。つ。左。右。齊。一。内。と。額。藏。が。腸。肚。を。刺
貫。ん。と。刃。頭。を。引。く。咽。と。被。ふ。声。歎。先。ハ。五。十。步。許。東。西。カ。リ。相。塚。の。蔭。う。一。そ。
両。方。一。度。火。射。歎。を。響。箭。弦。音。と。共。火。鳴。渡。五。倍。二。社。平。が。肩。光。へ。搖。一。挂。て。轂。
立。俱。火。所。と。外。れ。が。ど。も。痛。み。か。れ。ば。要。時。も。ゆ。堪。ば。兩。人。苦。と。叫。び。鎧。と。捐。を。
倒。れ。る。巷。八。火。あ。も。と。も。つ。や。と。驚。な。が。立。す。と。と。又。ね。が。と。の。箭。五。六。寸。を。紙
牌。を。結。提。く。奉。納。若。一。王。子。權。現。所。願。成。就。と。書。う。げ。原。來。真。の。征。箭。か。ば。

守を卒て賊を愛は百姓們が所為あわん疾蒐坐と生拘れと声を絞りて下
知られべうけあると殿兵共東西立まれし稻塚目ゑく簇々と走り進むと
箭の射撃を神箭よ皆紛々と射倒され右往左往と辟易と周章勝てば
當下稻塚推倒して頭れ立る西個の武士東西齊一弓投捨く準備の竹鎗搔取く
清朗なり声高らか茶毒の酷吏駄がせを額藏何の罪うむ虎威を惜て刑
罰と憲り私慾みありて忠義を凌虐し是汝が行之所神ハ怒り人恨り
同盟の義よりて天よ代く塗炭を極ひ虎狼を猶く人心を快く作麼俺们を
何人とう原す。本郡大塚久氏犬塚信乃成茅下總許我の浪人天飼現八信道
あああ。久氏も箭も鎗も王子の神室今汝が五毒の竹鎗との身よびての身ふ
え。返る觀念せよと罵責く鎗を捻く走薙れバ菴へゆく駭騒びく敵ハ箭種の
竭き。彼とう巣て擊仆せと胴声烈しく呼れ。殿兵へこれに獎されてまく棒を

うち振る逆進むを信乃現へたりのトを右より受左より柱く些も擬議せば瞬間五
丈の鳩尾中院刺伏う菴へ遙これとく敵ハ後よ兩人かれど猿雄當りがれ。
禦だも更に額藏と奪ひ去らモタリやくん彼奴をもく結果て後をく
ちとあれと腰裡尋思し送る竹鎗と揚く遽く棟の角とうよ近づく
ひり打く忽地後方よ人ありて酷吏菴へ且く等犬塚犬飼同盟の一死友犬田
小文吾悌順あすあす首をこそと呼苗う声よ駭く菴へも阿と麁て免揚る
運歩取次よえられ。信乃現へ一岌増く骨逞く色白く肥膏、つねる大男。
奉納牌と結下る王子の竹鎗刃にて透間とく突立れバ菴へも遠く竹
鎗をみて受り拂ひ且く防戦の程よ菴へが若黨と五六人の獄卒をく應ふ物を
あ振て共侶よ援あ擊倒えと競ひ菟を小文吾ハ物ともせば精神あく
如て難立駆立進みけ。その間よ信乃現へ柱る敵をひの隨よ八方へ擊散る。



肩垂へを數々と。暮直よ走来る前向よ勃興と身を起す。是五倍ニと社平か。
この時又なぞりよけど、肩よ立る箭を技捨く刀を見りと技速マ寄バ砍らんと立
あ。信乃現ハき。信とちく望む讐言敵ぞ。ごとき。漏一せド。と東西より大喝一声。
嘆て懸れバ社平ハ現ハと刃をすゞ。五倍六信乃を柱て戦ひ。もと十合よ至り。五倍六
拿うち刃を裏手と巻落され。驚。瞬く逃亡。脱し。背す。腹に斜と
刺貫く鎗よ縫れて轉つ輾つ頬よ悶苦。むせ。そづ。伏地上よ縫苗。今を獲。宿母の
仇。あ。と罵。抜く。尖た太刀風よ首を擣地と。擊。落せ。社平ハ。れ。舌を
掉く。刃を引く逃走る。現ハ。透さば追詰て。敵伏せ刺殺して。内逃。あ。駿兵。赤と
縦横無礙よ追拂。信乃ハ。や。額藏を樹上す。扶下して。傳の索。釋捨と。バ
現ハ。亦引え。社平。両刀を分捕して。額藏を。遞与する。余程。小文吾。持。若黨
獄卒。一人も漏さず。刺伏く。菴ハ。もあ。ことと。数个所の深痕を負す。巴逃亡
を。ひき。つま。せ。り。も。お。。そ。り。も。お。。そ。り。も。お。。そ。り。も。お。

下
て走りぬ。矢庭よ倒れ死にて。物員やくぬ奴隸をどひもく逃去て。ま
歎のやくあり。うが小文吾も館を捨て樹下よ聚合。程よ信乃へ額藏を勧りて。
危々。大川生み入又人のそへ一朝よ説盡矣。あも許我殿の御内人犬飼
見矣衛老人の養ひ子和殿も豫て相識。古入穂助の実子。大飼現八
信道。彼ハ下總の行徳。入古那屋文五兵衛の長子。大田小文吾悌順。この
両友も兄弟等。死慙ありて彼玉と。まゆよもて日来す。某を相助ひて。
あよ和殿を極れ。歎びあれ。まゆよのや。と引見まも。額藏。恭。小膝を
つむく。某何ふの天福。あうそ。欲萬死をかく。一生を保つ幸ひのや。この雑傑
達。よ面を接せざり。日より。かのを愛顧せられ。併大塚門の鴻恩。よもや
他日より事わざ。身を殺して騎かど。肩噪ら。ひと欲びと述。義を美し。感
坐す。叱や。現ハ小文吾處々。俺们も亦幸ひ。和殿と兄弟。えど宿世あり。聊死

力を盡せし。素より義の仗る所めくつやく恩と仇をもあだ。社平五倍二
 菴八ホが残毒の竹鎗へ天理人望よ違ひをもと。和殿を害ひてとなりて彼へ還て
 竹鎗よ遙れて命を隕せし。王子の神罰か。され景異よ俺們相謀て和殿を
 遠んと欲せし。も長の器械亮はあり。王子村の酒うする農家を。鬻賣ぐ鎗と
 弓箭を貰とうて大敵を殺し明せし。今ノ一地より。もく戸田河をうち
 渡して鄰郡まで退くべ。誘ひと急せが額藏まもく。感佩して信乃現ハホセ先よ
 立て西北のこへ足もよ走去ると六七町まで十町よへ過ぎて。涪父よ大塚す。新隊の
 雜兵二三十人塵埃を踢揚く追蒐を。走り。也。過ぎて涪父よ大塚す。新隊の
 報へ。町進驚走く。疾行の雜兵よとの癖者を撃ひ苗よと。頗る下知を傍へ。ケバ。
 食鳥銃を携え。既り。城兵ホハや四大士よ近づく。箭來程すくかる隨鳥筒
 頭を捕へ連掛て火薙を切らんと。打うち。俄然とて降そぐタヌ立の雨繁を

素一七忽地火鉢を滅す。城兵ホハ多ひひを。暴雨よ度を失ひ。且く押
 指す程よ東風と鳴どる。疾雷よ電光して雨脅烈。やれ。城兵ハソく
 驚び。すゑ。雨を避ひ。も。食樹下よ立寄る頂の上よ霹靂。天地よ響く
 一聲の雷火よ震れて死ち。ひ。死を。ひ。數を。あい。も。震死を脱れ。も
 共宿よ氣絶し。と。幕下枕よ伏す。四丈よ再度の追捕よ脱れ。と。と。一。を。
 四下の松を籠盾よ取て身へ濡れ。歎をあひ。天雷の祐よあり。力を用ひ。と。
 種の敵兵せび。されば是九事よ。あ。と。も。淹野川と王子の神を遙よ祭を。ま
 肩も武運を黙祷して。齊一間道を走り。戸田河を。事よければ雷ハ收り雨
 細り。も。黄昏よ近がる。とく前面へ渡さんと。彼此と。よまねよ。戦国の習俗
 も。領主の最禁あれ。渡船絶く。況く雷雨よ水陸の入迹稀。あり。折
 ゆわざ。便船せん。も。船を。ふ。を。の。よ。を。皆氣を。向て。東へ走り。西へ赴た。

かや下河原を幾遍とれく往返は果一かうけをかうと一程より町進ひ隊兵百五
卒名をゆく馬を飛して追蒐あり遙は声を仰り立て虐徒惡黨走るとも今夕脱
きよ路わん金汝ホ種々の幻術も或へ王子の神助よ假化一或ハ猛よ雷雨を
起して夥の士卒を殺せとこれ亦非常の備あり再度の追兵を遣しるゝ爲
心ひよきよ時を移すば反勢をねくみづくあよ追詰られば袋の物を取まう
易カ。みづくを束て縛をとくく受すと呼とべ。その隊の士卒共声合へて歎を咄
とぞ揚こうる四犬士へこれをえく河や舟りく陸ゆ敵あり進退あよ谷りぬ
刀の刃の續ん限りも金のあん際りかひの隨よ戦ゆ陣歿ちうり外よ矣や。
金ハ是義よりく鴻毛より軽し同盟同日同時より死かが故ら願ふ所か折り
も未だ黄昏也道のぬくハ躬方の幸ひ備を乱さざら寄せめ。奇を立てる中を
割え目だ讐敵ハ丁田のと人馬の足を立させと送よ諫獎と必死の覚期勇く

近づく敵せあ折り誰とよもく水際ゆ。繫た高蘆をぢる。漕より
一葉の舟のあらむを秋の川を誰とよもか。歌ひよかの岸へもよも船と
あらむあり四大士されざるにて彼も敵歟と訝シ。蓑笠著る一個の舟人連く
手招をく刀称們あく乗せ。従萬夫の勇わざと敵の姿勢よ比せ。舟九牛の
も。とつぞ。あらむ。とつぞ。あらむ。とつぞ。あらむ。とつぞ。あらむ。とつぞ。
現ハ小文吾小ハち人あつてそぞ知りく天の祐と要時も猶豫せば額藏共侶身を跳
やと船よ刈りとうめ衆れハ稽平へ權をう伸て岸をあれくやく船を返せ復を
呼みる町進ハ真先の水際より馬を騎居く鞭を枕て招げども稽平ハ耳すをば。
船底より蓑笠を四ぞうて取出して哭まよ遠とてひや折り逆風かれづぞう
漕とく速かこの船を前面の岸へとよし。兩ハ矢を射く霄れば敵の箭を禦ん
爲くとくをれど懲よ勦シバ信乃ホハ夷く然びもひうけ見稽平史

吾黨たるの危窮をつくり知らざん神速微妙の援手とし。稽平含笑く。
あらかじめハ理り。刀祢们ハいゆ比小人（おのれ）が宿所を辞去りて南を望て赴たゆ。
道の程心りとまふ竊よ迹を跟く邁一よ刀祢们ハ杜岡の風とくよ霎時憚ひ
あらかじめ折の密談を圖らばも竊室よみを同盟の義よりて額藏もと極へと
死せざる辭せざる武勇謀畧淹野川を辯天堂を旅宿よせんと相譚あひ。その
智その勇大さをぬ雰傑達やくもとゆく認く憑く又慕しらべ一内
おく宿所よ還づくがゆ。彼人々ハ額藏男を拯うと謀もとも城中の守禦
嚴重されば獄舎よ潛び近づく竊をとへかえづく。かれども刑罰の日
法場を劫して奪ゆ走らんと謀すめづれも不敵の豪傑（おほき）覓バ本意を
遂んハ必定あれども其處す城へ遠く再び夥の追兵を避ひ寡衆よ敵一
さ。逃走兵を殺崩して且くへ走るとも近属この戸田河よハ渡船稀覓ばあよ
船を彼处よ舟く刀祢们を俟う。一戻頃の雷雨よ黑白を別せ。ちや刀祢们ハ
あるこそと水際を徘徊をひけんとす知りざりと且くも物をやせのとす。今
些遲か。敵よ啖曲られづ。危かうと村膽の心の誠をとた諦セバ信乃現八
小文吾ハつもあもく感嘆して稽平ゲ任侠義胆を額藏よ告ふよん額藏も亦
えむ。やぞう。ちうと。ナド感佩してその恩信をぞ認づる既よして船ハ稍北の岸よ著ふされ。四天士ハ曲々よ
詠びを演るよ暇あく稽平セ見えり。皆再會を契て躰く水際よ立け。一
余程よ町進ハ士卒共侶よ声を揚ぐ頻よ船を呼禁れども舟入ハまぬ態りく亦
漕入をべく。鞍壺敲打。敦園悍く彼射て捕もと下知れ。雜兵凡
四十名ちのく岸よ立並て箭早よ射被れ。よろの間遠角が箭ハ徒よ水中よ

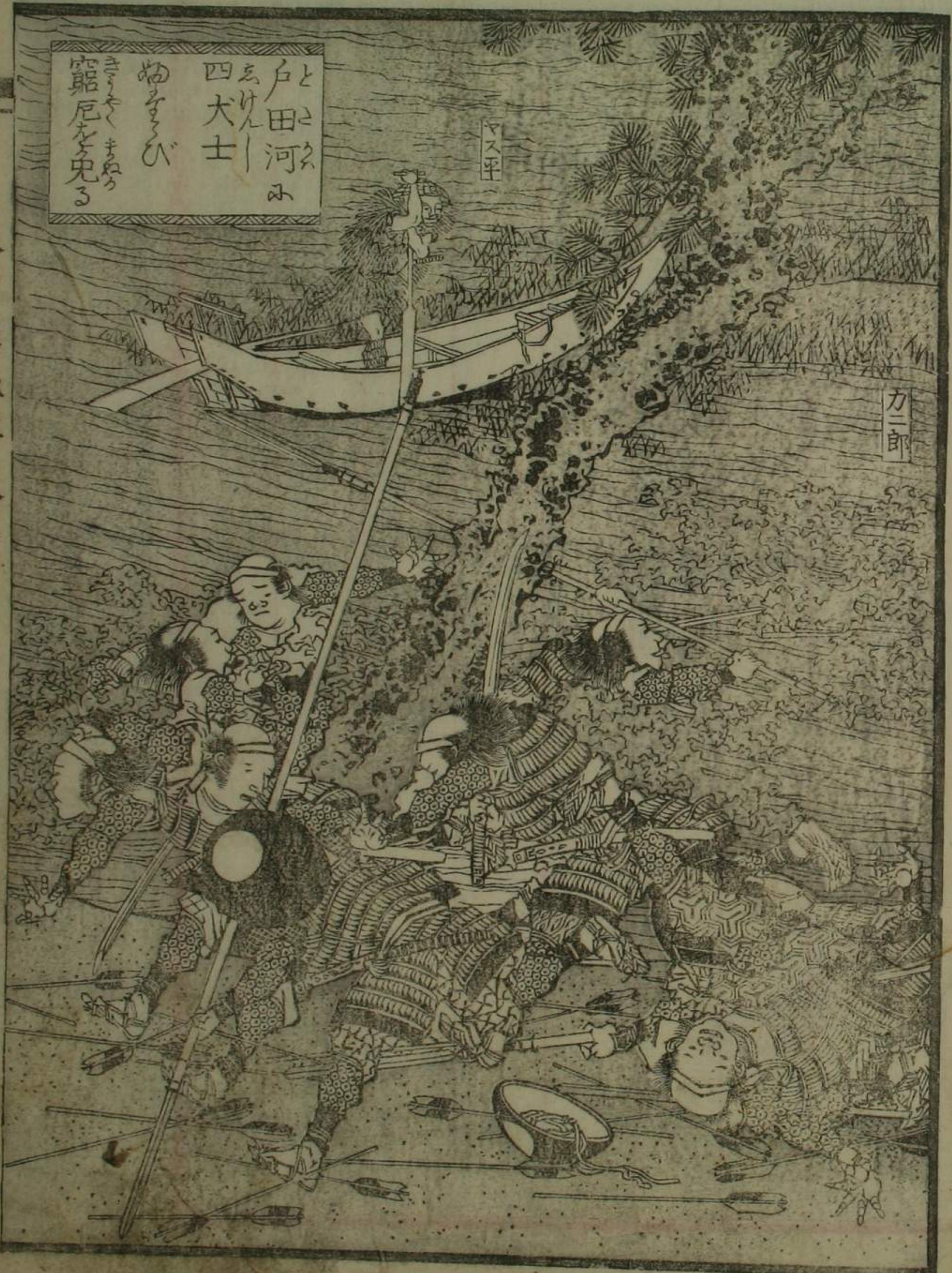
落とせば流れの町進ハこの光景よあもく怒罵りくひづひを共其の士卒を
残害して死刑の囚徒を奪去る虐賊かと轟き漏してハされも尤モ脱れと河幅へ
て廣けれどもあつとやハ浅瀬ゆえな續けといひ被く馬を颶と乗入れば早
雄の士卒六七十名僉後と渡へタリ。あれども夕立雨より河上より落と水をたまと
高ければ士卒ハ左右を渡しゆゑ或ハ弓を流す杖足或ハ臂を連て相扶け推流
されど喘ぐ程よ町進ハ只一騎馬を河の中央まで辛と進みを。猪平ハ遙に見る
遠く船底より弓箭を取ゆく能弯固く矢声をうかく丁と殺せば町進が乳
母のび人範深よきと立とぞ左手に札右に表甲を被ふる。裏缺處よ至るべ櫻
投捨てを進ミタ。猪平ハ一の箭を既に射損てうかれバ只顧よあら。隙て二の箭を
刺んとほほ程よ忽然とて一個の壯夫水中より浮ゆく町進が衿上。抓子棒を楚と
うち被て仰あき引落し腰から刀を抜いて押へて首を取てけり。その水中の

疾勧だ。目をあわせどもそぞれかく件の壯夫ハ町進が馬を奪ひて水中を
めりとうち跨り後れて渡さんとせ。雜兵を抓子棒を以て倒し突流へ推沈され
忽地辟易して舊の岸へ逃登るを追ひて馬を衆上よりかゝれども城兵が水より
ひとも陸より衆皆岸に踏みりて推捕籠を攻めり當下蘆原のゆどう。又
一個の壯夫突然と顕れ知くも横鎗を入れて城兵ハ闇靡をく乱騒ぐと始む。
応と長柄の鎗の刃頭尖く敵伏せ刺殺モ千変萬化の勧だも勇士ハ死す兩人なり。
城兵ハ既も大將を擊れども有撃不大勢りをりて退てもあり進むもあり。嘗
て戦ひて四大士ハ北の岸よこの兩勇士の勧だと瞬もせを眺て四士齊一感嘆し。
叫び戰ひて四大士ハ北の岸よこの兩勇士の勧だと瞬もせを眺て四士齊一感嘆し。
水際近く船を歇し猪平を呼んで記す世の習俗とて弱を助けて強を折く侠氣の
あらゆること。老人のとては御かく彼兩個の壯夫ハ何處づかう人や。えどもよ
かく。そばへり。うきとろ。こひれもとくあさまよ。あく。

八犬傳玉輒卷五

山東堂藏

尺八



事情か。叟をあらわと訝く。と以ひ稽平微笑く。彼は鼻裏を告ぐ。一力二郎
 尺八の小人既に老れ。ばけよの副よ相譚。死血氣は早う。ひそひそ豊嶋。陳馬両家の
 為怨を復さんと。かみきりわざ。大塚の陣番をさへ憎む。甚うて異議かく
 同意して。彼は蘆原より歸て。機よ臨み。變よ心して町進を。轟。捕らうと。信乃
 小。船難。かくも。又彼両勇士も。命を惜し。難よ代る。我が爲よ恩人。ある。妻夫
 や。親族ありと。歎笑す。より陣没せ。悔と。甲斐や。との歎危と。他よ譲り。
 荻。免。勇士のせむ所。俺们も亦。あれを恥。その船を疾。毫々再舊。岸
 渡。七生。死も安危を。彼人と共。今ま。躊躇。どう。と。言葉等。く
 急。稽平頭を。掉く否。この船を寄。まく。義を。多く。勇む。力称們。比
 志。かく。彼は敵と戦。か。力称們を落。まく。然る。再彼處へ。渡。く。俱す
 陣没。あ。此彼共。益。ま。お。壯校共。が町進。を。聲。捕。要。役。入。

して。遂に命を隕。一せん匹夫の勇を。是非。され。や。よう。も棄て落。ざる。彼は。小人
 只。侠氣を旨と。今力称們を。敵。よ。あ。世の豪傑。と。あ。す。金。換。て。頼。人
 と。欲。ほ。との。あれ。ば。そ。委。あ。せ。状。と。音。音。よ。届。か。く。彼は。ぐ。人も。小。人が。き。力。も
 定。あ。る。べ。今力称們を。渡。つ。追。兵。を。禦。单。れ。ば。れ。ハ。神宮。へ。還。り。か。く。
 ま。そ。う。の。よ。め。り。ま。る。か。く。そ。う。の。よ。め。り。ま。る。か。く。そ。う。の。よ。め。り。ま。る。
 况。彼。壯校。か。せ。先。死。る。と。あ。バ。誰。を。便。著。よ。立。潛。び。く。餘。命。を。何。處。よ。食。べ。死。を。
 き。限。り。の。浮。世。ぞ。豫。て。覺。期。を。究。や。う。然。と。の。船。を。ま。り。よ。流。さ。バ。力。称。們。の。又。渡。一。充。
 や。だ。ハ。敵。よ。そ。し。や。先。船。り。う。共。よ。身。を。淪。赤。心。を。頭。に。下。し。く。も。と。ひ。く。せ。そ。も。
 河。中。へ。漕。か。せ。六。四。大。士。六。先。を。う。も。愛。く。且。感。一。且。驚。く。水。際。よ。足。を。翫。て。ゆ。等。か。人。稽。平。
 叟。い。う。趣。理。り。か。れ。ど。も。叟。は。三。人。を。よ。く。死。て。何。地。へ。う。落。う。だ。舟。は。よ。と。あ。う。の。船。を。
 あ。げ。た。ぐ。柱。く。且。く。あ。せ。そ。と。異。口。同。音。よ。呼。禁。れ。ど。稽。平。ハ。忘。せ。ぞ。河。中。遙。よ。漕。退。ひ。豫。て
 す。の。准。備。を。も。う。る。船。底。の。栓。を。引。拔。捨。れ。バ。船。ハ。底。す。水。入。く。人。を。乗。ち。忽。地。よ。

波の下を沈む。四大士ハ法然と名す自届ぬ薄暮。戦ぐ蘆の葉。死。前画ハ修羅の大刀音矢叫び。よせくハ矢を河風。奥より黎む宵闇。其处ともうだかう。かまへがども四大士へ捨て走ふ。忍びぞよし。肩悽然と立在。信乃ハやう度く身ひえし。忽地。声を發して時うが命か。必死を極め。俺们ハ兩三度危窮を脱れて。身を犯す。稽平ハこの河中より投て死せり。且西勇吉存。七日目今を定め。然ばと云云。この小節。かづく。河原より立て曉。死。うち人の返すあい。勇士を援か為す。や。稽平が俺们よりひ送せよ。そ。あらやま。ちゆ。れんこふ。や。荒井山まで赴う。恩よ答る。あ。ト。誘ひ人々よ通宵走り。無異を。ち。つまか。う。げんち。も。み。ん。ご。ま。と。さ。う。か。料えん。と。誘ひ立れ。現八も亦小文吾も寔よ然こと頷だる。が。中より額藏ハ遙。おの。信乃をえり。そ。彼樊噲。大功ハ細謹を顧む。大礼ハ小讓を辞せ。が。と。承じ。と。買。バ稽平が入水勇士の。人。尤惜む。勝れど。水を隔て。うち歎。が。ハ。

第三十四回 電電の社頭よ四雛會話を
白井の郊外よ孤忠讐言を窺ふ

あれも。げよ。女。き。や。を。相愧て。現八小文吾。共侶ようちつれ立く野干王の
間。あれど猶も世をあざよ似。岩。の。蕨。の。く。よ。赴だる。

走る。の。ハ。路。を。擇。ま。ぞ。貪。た。め。ハ。妻。を。擇。お。だ。餓。う。み。ハ。食。を。擇。お。だ。寒。た。め。ハ。
衣。を。擇。ま。ど。その。時。と。勢。ひ。と。人。情。を。う。か。の。如。き。程。よ。信。乃。額。藏。現。八。小。文。吾。が。
上野信濃を心當よ。その終夜間道。す。只。嘗。ふ。走。れ。ど。比。ハ。七。月。初。の。二。日。黑白も
別。ぬ。鳥。夜。ゆ。わ。遇。と。五。里。許。ゆ。く。忽。地。山。路。よ。迷。ひ。入。り。く。そ。ろ。く。考。程。よ。天。
明。う。と。う。れ。ば。ま。ご。若。を。ぎ。よ。あ。ぬ。高。山。の。半。腹。よ。あ。ふ。く。ア。躲。て。巔。よ。登。り。く。東。細
く。も。ひ。ま。帶。の。間。う。と。西北。の。く。を。直。下。や。寂。か。人。煙。廻。ふ。え。く。而。彼。此。と。徘徊。ち。る。よ
よ。荒。う。神。社。あ。り。と。華。表。ふ。掲。一。匾。額。よ。雷。電。神。社。と。之。四。大。字。ひ。寫。定。う。や。ど

讀れ。信乃づくと瞻仰く諸賢へまご衆を。あハ桶川の東南ある雷
電。す疑ひ。彼方より人煙へ是桶川の郷を。きの六日ひさうも庚申
塚のああこそ。神雷の落かず多く夥の追兵を拉れ。へ世よ稀。かげ天恩へかく。
昨日。途よ迷ひ。今を。雷電の社頭。天の明。因あり縁わ。奇かげ。を
は。有理と額藏。ホ三士も齊一瞻仰。且感。且尊。そ石湯を掬。朝淨水。ちく
社壇。小額つ。俱。祈念を凝。且て四大六樹下。退。又彼此と。そ。
神社の背。桑葉樹。えり。菜蔓楊梅。も少く。ぬ。みかよ。熟して半ハ落。腕て束と
菜蔓を採。食。充。甘たと。常。過だ。忽地。疲勞。忘れて心地清。差く
や。山腹ハ。朝日の影遲。れ。樵夫牧童。や。遭。鳥ハ。綠樹。ふ
隠れて。声。高く。雲ハ。青。赤山。起。道。定。現。静。け。山の徳。す。
名山靈峰。されハ。在。ど時。う。その佳境。う。と。皆共。侶。嘆賞。て。或ハ。石。尻。と。ク。

或ハ。朽。餘。身。を。倚。送。相。諱。ひ。慰。り。當。下。額。藏。ハ。恭。貌。を。改。そ。き。の。ゆ
と。あ。下。の。ひ。も。の。ゆ。も。の。ゆ。え。夏の慌。くて。曲。欲。ひ。と。演。ひ。あ。人迹稀。れ。バ。密。談。究。竟。か。の。胸。臆。を
盡。ひ。ト。犬塚。ぬ。何。故。許。我。よ。苗。り。ぬ。ま。况。犬田。犬飼。の。両。友。を。え。相伴。て。基。が
必死。の。厄。と。極。ひ。あ。ひ。と。爲。体。不思議。と。す。わ。あ。あ。つ。る。や。ひ。ぬ。く。と。い。宜。そ
志。の。や。あ。い。信。乃。ハ。含。咲。あ。あ。も。ハ。理。り。そ。某。も。亦。滸。我。か。免。れ。る。犯。大。厄。あ。この。故。よ。下。懲。り。
行。德。よ。流。浪。つ。ぬ。び。危。う。る。で。幸。れ。そ。三四。の。豪。傑。身。金。と。擲。く。遂。の。窮。厄。と
釋。れ。う。そ。故。ハ。箇。様。々。と。彼。村。兩。の。刀。失。せ。ー。又。現。ハ。と。組。轂。り。て。滾。て。船。ふ
落。う。文。五。兵。衛。と。小。文。吾。が。妙。真。房。ハ。夫。婦。が。大。八。の。大。江。親。兵。衛。と。大。
法。師。と。姫。照。文。ホ。が。伏。姫。の。縁。故。珠。数。り。の。入。房。の。大。の。う。ま。安。房。の。里。見。宿。因。
わ。との。繕。略。を。と。示。お。現。ハ。小。文。吾。も。送。代。よ。の。漏。ら。と。補。ひ。う。額。藏。ハ。く。毎。駿。
然。と。て。うち。驚。た。潜。然。と。て。うち。歎。く。房。ハ。義。烈。ハ。ま。親。兵。衛。が。幼。禪。く。大。士。れ。

一人ともを喜んでいた。やがて文五兵衛が眞か心穂の大さやみと嘆賞して
「まつらあひい　よねんえんぎや　きんくのまことをも　あらはとこちる」
声を歎む且つ大が二十餘年の行脚の勤苦又照文の母の爲め従弟照武が子やうと
「あくえんうんご　おもえんもぐ　きん」
との宿縁を感悟して哀歡交みづく禁をつらぬ亦現ハ小文吾が孝順義勇を眷
あい。
「らや　ぞ　志のあく　ひ。うさとまち
愛してゆき骨肉の如くそりあひ信乃ハ又ひあう某行徳より一日ハ舊里の凶
へん。やあ　一　志のあく　ひ。うさとまち
変を夢やども知らざれバ竊み和殿は對面にて事の趣を報ふと犬飼生共侶よ船を
へゆく。
畜は送られて神官の岸よ著一折漁者稽平よ呼苗られそとどもと玉之伯母夫婦の
ヨウ一。まもむちくわうひをまき。あがうとまき。
横死と和殿の忠勇非法の禁獄詳よ役人等うるえよ大飼天田と密談セ七滝野
川あら辨天堂よ七日許參籠して云々と謀りて遂よ和殿を拯ひゆう加旗稽平
をもあらぶら
尺八力二郎とやうんが援あり既もく恙なく四支画を接せりテ教び何物をなあ
べ。さもとあ
べ。ちやうへいあえ。ああをぢえんぬあく。おれぢぢあ
尺八力二郎とやうんが接せりテ教び何物をなあ
べ。あも里見殿あうて徵聘の沙金を延崎生の懇意の隨よ某且く預りかね
うけた
受納めひひ。とひうけく懷かす財布を拂う下包の沙金をもゆく遠与ふな
ん。

額藏ハ謹く受取。左右を納め。某の里見殿。一介の功も。和君達
を属す。某が故をも。纏腰の費。是よりの後進退。和君達と共に。
身の財を分んと。本意す。あくこの役。大塚。脇領。と。びひか。
推辞。信乃ハ頭を掉く。刎頭の交りへ送る。介意あらず。某も和殿のゐる疊崎
生。詩ひ。云々の後。よく。口と。詰ひ。その功。皆。和殿賜
物。それらを。預措。此の後。纏腰。一くわづ。送る。相資。財を分つ。と。す
りあく。裏。彼殿の懲聘。且く。固辞。まつて。同盟。全う。ねば。と。く。納め。室。
と。諭。わたくし。額藏。遂。その意。仕。沙金。を。懷。と。挾。ふ。ぞ。嘆息。して。現。只。今
ひま。玉の文字。す。我。と。過世。似。ち。め。八人。あ。死。と。よ。大江氏の子
と。既。五人。も。就。て。又。一奇談。あ。裏。某。も。だ。圓塚山。の。うち。二個の
犬。また。撞。見。う。そ。の。故。ハ。如。此。き。と。信。乃。よ。栗。擣。ま。別。れ。日。午。住。す。日。暮。れ。

みち
ああ。あるつやま。ふぎ。ちうのさもドら。わらわら。あらわら。
みち
くぶかひど路をとて謬て圓塚山を過る折左母二郎が村雨の刀をりて濱路を
殺す條より天山道節忠與が左母二郎を砍倒して濱路と名告令す。且
濱路ハ道節が妹かづゑ。その父の母の母の娘濱路が節義道節が孤忠一五
一十を竊聞セテよりの趣又道節ハ村雨の刀をりてそ君煉馬倍盛の仇官領
扇谷定正を狙撃ひんと多のあす濱路が需よ応せざりて濱路ハとて休息
絶一を道節が火葬セテ縛果て額藏ハ村雨の大刀をとて復さんとく道節と挑
戦ひて折守護袋を道節が刀の鞘みかづき遂よ渠ふ取り下り又道節が
肩から瘤を一撃ひ擣と砍て金瘡口あり飛散る玉の怪くもまづもふへりとくと
彼玉をとり換らるとの玉やかの字あらず道節ハ火遁の術をりて竟よ逃れ去りたり。
今後額藏ハ左母二郎が首を木の杪よ軒梁て云々と書送せし、濱路がぬよ人の
猜疑をあくせドとのことをかくす。これより町進ホグ。督船を資トより大約事
セギ。

頗末を曲よ告て又ひゆう某禁獄せられ日水火の苛責痛楚よ勝ば心地死ぬべう
が聲すと此の玉を口よ含め快然としてその氣力生平よりも壯よやく歎又この玉をもと
身を捺れば杖瘡立地よ愈てその痕どもあくがりぬこの故よ町進ふハ法術あつと
疑へ。これ亦奇妙とひゞて。これ又更と遠く髻の中よ藏。玉をもとぞ示せ
。信乃現八小文吾ハ共侶よこれを乞く嘆賞声を合へ。當下信乃ハ法然の臉を
もとあがきぬ。ひかれ。吾黨よ有縁の婦入へ慙薄余がくのどくかく。伏睡入へ
久かず。權者。後身ともひゞて歿あれど。その終焉の爲体を爲せ。よまと。痛
也。且阿沼蘭とい。濱路とい。才貌節義の世よ捷れ。も廿歳のくと起。下く皆
元非命よ終を取。不幸あれど甚大か。且濱路が眞の親ハ煉馬家の老臣天山
道策かんや。その素生も賤。かば。某曾彼女子の縲致十二分の趣あり。婵娟や。と
惜むよ。只その節義よ勇猛。婚姻の期よ及ば。一夜の情も被さ。某

為よ節を守りく百年の命を捨て心操を障むる幸め。之大川生をみ霄彼山路を
過らば誰が最後の為体を認く。義は報知矣某諸賢の資よりて名を揚家真を
も。又正妻を娶らずだ子孫の為よ己とあくハ妾のまこと事足りん。こハ被義女のかれ。
こちえんもくとづつびる。ねぢぎ半らち。うかわらめくち。あぬやまどうち。
克寒食足下の微意。奸佞人ふ謀られく。村雨の大刀すらも彼犬山道節ア。
有りて渠の玉の皮肉の間。あくべの身ハ死をもど。その
姓氏の天山ア。且この忠の字代王あく。名え忠興と称ほ。バ大士。うそ。疑ひ。お
あくちりど環。時をとも期が。あれも死死。とゆく叱む。感涙を歎み
あくの誠よ小文吾も現へも為よ貌を改ゆ。惧よ感嘆をうる。且て現ハ額藏よ
うち對ひ。某が実父糠助ハ和殿モ跡々。大塚生。かづ。某ひら。ば。
実父の名を知る。あく。を。大塚の墓と祭。大塚生の恩信よあれり。然れバ天田
共侶よ同盟の義を以和殿の母前の墳室所行帰塚を祭り。又。兩三度よ及ひ。

あれも再ち。彼犬山道節も過世の兄弟ひぞ。今ハ往方をき。度のやも環
ある日のかく。之。又。小文吾も又。親同因果の大士。あく。親同胞あり。
出生の地も同ド。かく後どとの氣俱よ相通じて。眞の同胞やもあく。とあく。うやう
大川生ハ玉を道節と相換く。角。之玉の奇特あり。同根同氣の感。す。所これと
り。微と。バ又何をう疑ん。や只山林房ハと。稽平水の三四の義。六。ちく。因果よ深
淺。か。故。大士の列に入ると。か。ひ。之。大江親兵衛。や。只。稽平。姓。任侠。因
え。ま。う。や。そ。う。れ。な。と。う。ま。う。そ。う。れ。い。み。み。く。ひ。お。う。そ。
媛。雪。舊名ハ世四郎と。呼。れ。う。と。み。ぐ。う。そ。う。某。が。畫。大。の。足。四。白。か。そ。そ。と。与。四。郎。と
名。す。う。そ。う。彼。と。此。と。同。訓。又。世。の。常。言。よ。雪。ハ。犬。の。娘。と。欲。そ。う。そ。の。氏。の。媛。雪。す。ハ。亦。是

犬よ縁む形び。且カニの両字を轉倒せば便是。方とある又尺の字のべと上みせれ。便是戸の字かう又これと全聚され。房の字とかよあひ。えを尺八の八の字を房の上み冠らされ。八房の二字と称す。強牽傳會よ似たれど亦是犬よ縁む形び。後よか紙に因縁の定くよあひ。今之急務よあひ。且く度外よ措ねとい。意計を。妙論よ小文吾ハまく。額藏現ハ只官よ感服して。その才幹を。稱名がく。又額藏ハ腰刀を右ひ。これを信乃よ示して。之をつまひ。庚申塚のはどう。大飼生の精悍。社平。兩刀を分捕。某よ貳り。死。紛糾の折れ。さても心つまう。今朝。ドウそく。この腰刀ハ。比栗橋の宿り。も。竊よ和君に。元を。あゆ。セ。桐一文字の名刀。いゆ。六月十九日の夜。簸上宮。を。敷ひ。延て五倍。二。三。瘞を負せ。ハこの腰刀を。アリ。セ。某囚徒とか。比社平。掠奪。うる。かん。かく。又循環。リ。某。が。み。ふ。落。タ。亦是一奇。と。アリ。あれど。この桐一文字ハ和君の祖父。

近作ぬ。先祖相傳の名刀。と。龜篠。が。授。ひ。來歴ハ云々。と。定。ふ。大飼。と。あり。ハ和君のあ。ハ茂陵の千金。これよ。あ。の。何。あ。ん。某。ハ。角。社平。が。大。か。ア。一口。ゆ。事足れり。彼村兩の名刀。ハ。道節。グ。も。落。れ。ハ。今。請。復。モ。す。し。折。先。を。和。君。モ。讓。あ。う。藏。ウ。更。と。そ。あ。信。乃。ハ。欣。然。と。左。右。の。手。受。取。て。そ。ん。か。も。義。ア。う。能。ぬ。か。ち。と。大。田。生。が。あ。ろ。あ。そ。所。藏。の。両。刀。を。贈。り。あ。ひ。次。の。五。倍。ニ。を。敷。ひ。通。て。銳。鈍。を。試。ハ。現。技。羣。の。銳。刃。か。鞄。ハ。金。の。臥。龍。か。と。覗。り。又。紫。金。魚。子。と。金。の。雪。篠。を。置。た。の。両。刀。の。表。装。一。對。既。よ。こ。の。両。刀。あ。れ。バ。事。足。く。よ。ど。桐。一。文。字。ハ。先。祖。の。重。宝。存。擊。よ。捨。て。た。景。ひ。ア。厚。意。よ。任。て。こ。の。腰。刀。と。相。換。て。腰。よ。帶。ベ。あ。ざ。を。進。ら。せ。ん。納。り。ア。と。正。首。よ。モ。腰。刀。を。贈。り。よ。け。れ。バ。額。藏。ハ。受。う。そ。う。眉。根。を。あ。る。

。おのをまことへ。とち。かわてぬきとう。ぬねうぶもく。
あらそひ信乃父腰より大刀をひき右より抜取て大川生々々々この大刀とともにすが物
あらそひ。あらそひ。うちうえ。きもんじゆぐま。
あらそひ。社平。大刀と換り桐一文字を曳れられバ一刀あく事足れども和殿のあらそ
ひをもあ。むしやえぢゆう。だまう。うち。だんとうけんげき。あそんつよ。いそらうらぎ
休る爲て武者の戦場より敵を撃ひる分捕の剣戟をその子孫は傳きバ子孫以當
死。某社平を數ひしる五倍二ヒキの悪等た渠も讐敵の半隻あれバとと乞ふ
腰よせん。古入觸體盃の竟猛よ勝れるとあづきと勧きバ額藏ハ辞をうそ。
兩刀俱は換てさり現八これぞえりて人義を以て死は贈きバ人又義をきて必酬か大田生の
ひ死である。いねつ。ぬふ。えんざん。ひとくべ。
幸也翁ハ大塚より大川と三傳して舊より返り世の久ハ只眼前の利より走りて義を疎
か。あそびと酒食の友の生涯信友よ遭ぬかべー今三刀の奇遇をうそもその宿因の
深計を知りて。あえびえ。いまえうきぐ
。あらそひ。あらそひ。うちうえ。きもんじゆぐま。
深計を知りて。あえびえ。いまえうきぐ
。あらそひ。某諸賢の助よあくて萬死と復せりのをあらそひ。けずりて小廄の苦役を
免めどをぬく。むしやえぢゆう。だまう。うち。だんとうけんげき。
あらそひ。比竊。大塚ぬと謀りく名字を莊助義住と
あらそひ。あらそひ。うちうえ。きもんじゆぐま。

改られども主の莊官は憚て世を披露せざりて今もまだもとが父の像見の両刀を惠れ
額藏を改て大川莊助義往と呼ぶ。額藏と莊官の漫よ名づけ二字。今
また不祥の義あり額へ則比太兎と訓。額は顕をのあす。額藏と孰れへ
額藏と訓をりて世を潛ぶ貌あり又死人の幟目よ似たり果して不測の罪を犯す。
世をもがくをうきてけれまへ莊助の莊丸。助わよやをとどか。改名の趣意かくの
如一と又バ衆皆諾ひく。ありそーとたつてこの日よりて額藏を莊助とぞ稱。商量
既よ果一ぐ信乃現ハ専共侶よ小文吾よも對ひて。曩裏やもあぐ勧めーどく。
和殿ハ行徳へ還り。假初ト送りあくをぬ九日よりやう。家尊の大入も妙真も
まち持ふどあんぞん加納前諾せ。大道德と蟹崎生よ約を違ふ。似て快く。大川生を拯ひぬ。されば迷憾也ともあく。ド還り。又ヒ促せ。莊助も亦意を演る。
ともきけう。ちむ。こぢんご。あさが。もひだ。おぎくとぶい。俱よ帰郷を勧。小文吾の事後をいつく趣すあれども行徳ハ無異也。あれ

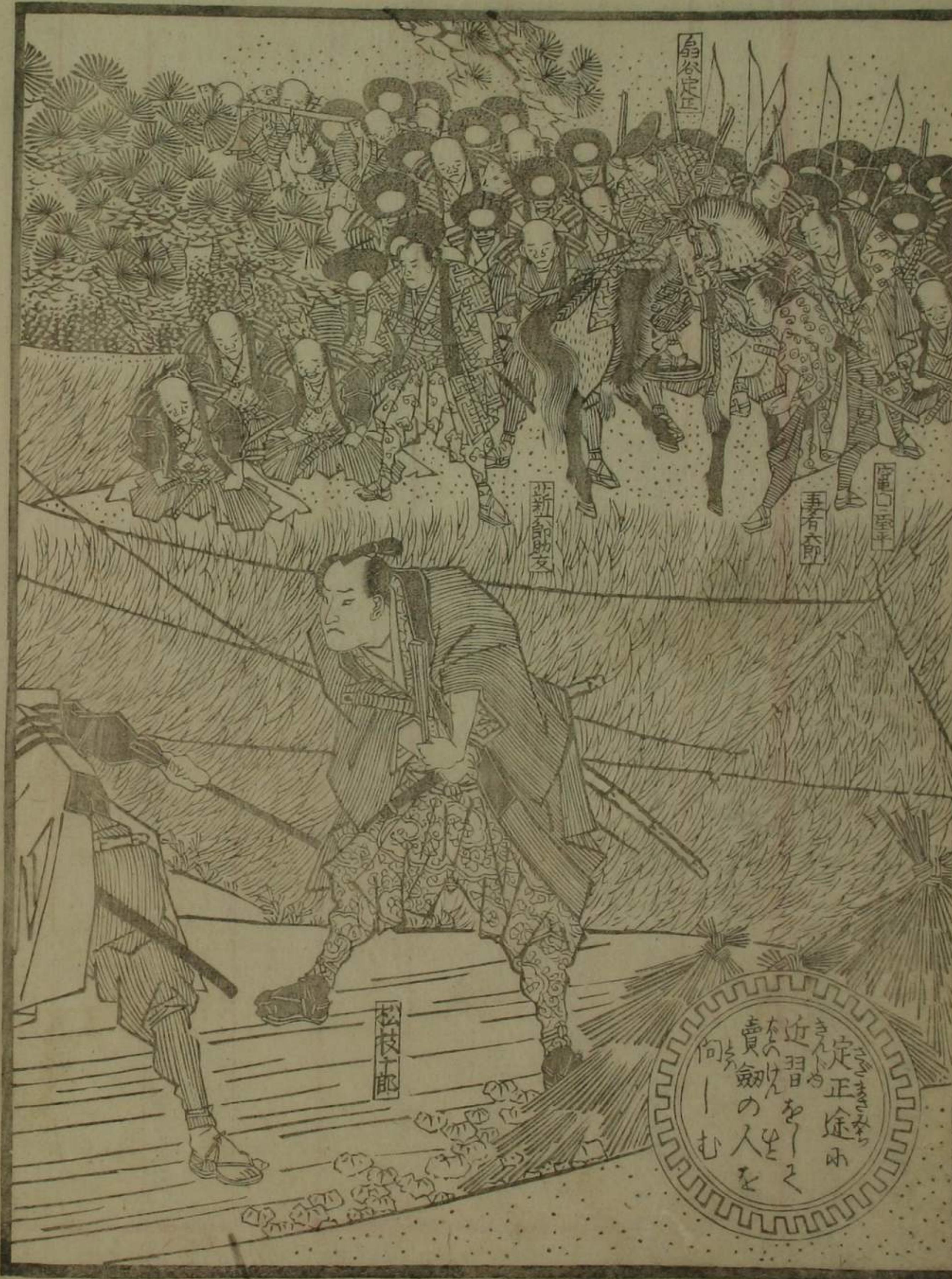
蘭安^{やき}。荒芽山^{あらめやま}を送^{ちよ}りて後^のは袂^{そで}と分^わん世^の鄙語^{ひご}やも仏^むと作^つる。易^{たか}く魂^{たま}を容^ゆとハ最難^{さいなん}。とあくを始^{はじ}めて終^すまふ大丈夫^{だいじゆう}とを。彼^{かれ}が稽^{さき}平^{ひら}云^う云^うとしむつともあくを始^{はじ}めて終^すまふ大丈夫^{だいじゆう}とを。とくに彼^{かれ}去^はりて後^のは袂^{そで}と分^わん世^の鄙語^{ひご}やも仏^むと作^つる。處^{ところ}あり歸^か去^はりて彼^{かれ}佛^{ぶつ}を作^つども魂^{たま}を容^ゆと似^おう再^たか勧^{すす}めと爲^な入^るて推^{すい}辞^べ。信^{しのぶ}乃^{おの}よ遂^とせんまく^{まく}躰^{からだ}と意^の仕^{つか}け^{つけ}。かく果^{たま}し長^{なが}談^{だん}よ秋^の日^ひ景^{けい}の傾^{かたむ}くと覺^{ゆく}下^さ肺^{はい}と。四大士^よハ又^{また}商^こ量^{りよう}て縱^よ浮^う世^よをあぐと。この深^{ふか}山^{さん}の露^{あらわす}宿^{すく}せバ猛^{もよ}獸^{じゆ}毒^{どく}蛇^{へび}の愁^{うなづ}もあく。今宵^よハ桶川^{おけがわ}宿^{すく}。とぞ齊^{そろ}一身^{ひとみ}を起^おて。又^{また}神^{かみ}壇^{だん}を伏^{ふく}拜^{まつ}む別^{べつ}雷^{らい}の名^なを負^{うけ}ハ武運^{ぶるいん}ハ甘雨^{かんう}の降^ふ。とく武名^{ぶしめい}ハ雷霆^{らいてい}の裏^{うら}。とく隈^{くま}天^{あま}の下^さわ^ら播^はす。とちく雲^{くも}時^{とき}黙^{だま}禱^{とう}。と又^{また}彼^{かれ}の木果^{きのこの}を拾^ひ。飽^{あく}まで腹^{はら}のみ栗^{くり}の中^{なか}の細道^{ほそみち}踏^{ふみ}。桶川^{おけがわ}の郷^{ごう}へ下^さりけ^る。却^{がく}説^{せつ}信^{しん}乃^{おの}莊助^{じょうすけ}現^{あらわ}。小文吾^{こぶんご}ハ次の日^{にち}旅宿^{りゆくしゆ}を夙^{ゆふ}起^おき立^た深^{ふか}くてゆく程^{ほど}。と一^{いっ}も急^{いそ}ぬ旅^{りゆ}かれ^ば世^よを潛^かる。所用^{しゆう}南朝^{なんしやう}名臣^{めいしん}の隠^{かく}と所歴^{しょれき}々^々とて古蹟^{こじき}存焉^{する}。千年成^{せい}坂^{ざか}登^{のぼ}ハ二十有八^{じゅうは}層^{そう}より。百六十^{ひゃく}層^{そう}より。四坂^よ五坂^ご升降^{こうこう}也。深谷^{ふかく}の地^じと帶^おも。崖岸^{がいがん}の状^{じょう}と見え^えれ^ば鑿^{さく}穿^{うが}る。如^く高^{たか}嶺^ねの天^{あま}横^よふ^る巖^{いわ}巒^るの勢^ぜと仰^あげ^ばか^かて削^{くず}る^よ似^おう。煙霞^{えんか}の子細^{こまご}泉石^{せんせき}の分明^{めいめい}。实^{じつ}は天上^{あめ}の靈奇^{りょうき}。人間^{ひとげん}の妙絕^{めうぜつ}。神殿^{じんでん}を資^す。地主^{じぢ}神^{じん}を波古曾^{はこざ}と號^{たま}け^る。本社^{ほんしゃ}を妙義^{めうぎ}。推現^{すいげん}と唱^{うた}ふ。隨身^{じずみ}仁王^{じんわう}總門^{そうもん}。神明^{しめい}宮^{ぐう}日本^{にほん}武天滿^{ぶてんま}宮^{ぐう}。指荷^{さしが}神^{じん}社^{しゃ}。辨才^{べんざい}天^{てん}飯^{めし}綱^{つな}不動^{ふどう}觀音^{くわん}聖^{じゆ}天^{てん}大^{だい}黑^{くろ}天^{てん}金^{きん}毘^び羅^ら入^{いり}震^{ふる}。禿^{かぶ}倉^{くら}。本地^{ほぢ}神^{じん}樂^{がく}。護摩^{ごま}の三堂^{さんどう}。繪馬^{ゑまい}掛^かの四阿^{よのあ}。香^{こう}水^{みず}及^{およ}菅^{すば}公^くの硯^す水^{みず}。教^{きょう}舉^ある。遙^{とお}か^る神殿^{じんでん}佛^{ぶつ}堂^{どう}上^{じょう}入^るて戰國^{せんご}燒季^{やき}の世^よと。とども亂^{らん}妨^{ぼう}の先^{さき}徒^{しゆ}あること。又^{また}その

名蹟奇峯を向へバ仙人庵大黒嵒地藏岳塞河原阿弥陀岳大日岳弯々天台金剛
峯釋迦岳天狗岳天燭峰高龍巖五臺峰金玉峯あり俗ニこの邊を奥院と
云。險峻なる靈嶽を仰歎として向上れバ萬尋の青壁ハ凸凹として脣遙か空洞
あり幽谷を覗きとて直下せば千仞の縁苔ハ穹窿として瞑眩く葛藤の挂る處
ありをあれよりづいづいとろどろのちぢりかな。人迹罕よ及び荆棘の減る所鳥路狹よ通ふその奇との妙面あり目は見耳は聴くね
が夢よ似て夢ゆかく現ゆ。現ゆドと見れ脣を疑ア巨細は乞を賦
也。左思が十年の苦を積とひでう拙毫よ及ん。目今あよ説者ハ是明月の
前か。片玉を採る類アベス有。於四犬士ハこの靈場を巡礼して或ハ躋或
躡或隈か遊觀する程。その日も未下刻。よし。中嶽の邊ある茶店。
霎時尻をうけ。疲れ足を休め。この茶店は遠眼鏡あり麓のこす推向く。
臺より居る役所を放す客は貸や。莊助ハ戯れる遠眼鏡を引いて山間遙か
欲す。かく。や。かく。や。渠も亦あつまう徘徊して隙を窺ひ時をねば。

直下せば毎からき麓路まで。と鮮明よ。とて。浩然は蘭織笠を戴
る一個の武士總門のあたかる溪川の橋をわざあ。うのまう。邁ゆ。ア
心ともれなく。あ。う。圖ひ。後方をえぐく。本社のことをどうも仰た。あ。面
影ハ笠の際が。天山道節。似。う。け。も。あ。う。ふ。とぞう。小瞬。せ。だ。目送る。よ
在總門の外。よく。往方もあ。う。だ。か。り。や。け。を。送。憾。な。と。限。り。り。か。れ。バ。只。顧。か
え。え。か。の。お。の。げ。ん。ち。こ。そ。ぎ。ら。あ。く。ミ。や。け。の。み。う。と。も。え。え。
嘆息。う。信乃現。ハ小文吾。ふ。云。云。と密語。バ。ニ。す。も。俱。よ。嘆息。して。り。返。を。
か。ら。し。よ。眼鏡。を。採。く。直。下。せ。ど。も。遂。よ。と。の。甲斐。あ。ま。け。り。當。下。信。乃。ハ。沈吟。と。
速。眼鏡。を。見。一。人。よ。追。者。ん。と。欲。ほ。と。も。の。处。す。總門裏。一。里。四。町。あ。と。欲
火。バ。危。鳥。あ。と。も。及。ば。く。だ。き。の。巷。の。風。声。を。支。え。う。一。か。管。領。扇。谷。定。正。頭。
近。屬。當。國。よ。退。居。て。白。井。よ。在。城。あ。と。と。彼。道。節。ハ。兩。管。領。と。粗。擊。ん。と
欲。す。か。び。や。あ。う。人。よ。渠。も。亦。あ。う。ま。う。を。徘徊。して。隙。を。窺。ひ。時。を。ね。ば。

君父の怨を復すと謀るとかくや。これ彼をも推量する大川生が見る武士。
道節ゆゑと疑ひて誘ひ下向して白井の邊より趣々萬よ一つ彼入る環あるもあらず。
とくと急せび莊助現八小文吾へ一議よ及ばず同意して其勢又頗らもあらず。
立ち足引の山本見立くかの遠だ千々の石階落もが如く足よ信して下向せり不題。
官領扇谷修理大夫定正へ近属山内頭定と不和ありやすり猛々鎌倉を退て上野
白井より在城を當國あり信濃越後を定正の采地とし人馬を調練して
不虞よ備ん爲ひ矣。これより定正へまづ五日早朝より砥沢の山よ狩競く。
明治六日の申の比より白井の城よ回旋を定正との日の方扱へ紋絣の狩衣よ精好の袴
革皮の行縢穿て金作の大刀よ虎皮の尻鞋をもと腰よ跨へ八分反の武者笠を
戴り奥州驛の太逞た馬よ紅の厚徳掛く磯馴松よ月と衛を銀つ磨白よ
毛举るよ追あべ駿の列卒よ野猪鹿をどきぐの獲物を扛擔し来る。
をも鞍四下羞明く皆具て紫の鞚繩縄つ馬上優よ歩行せり相従ふ近臣へ

巨田薪六郎助友竈門玉宝平五行妻有六郎之通松枝十郎貞正示従類凡
三十五名外様の若黨五十餘名又弓箭鳥铳を肩よせて雜色奴隸よ至る
毛举るよ追あべ駿の列卒よ野猪鹿をどきぐの獲物を扛擔し来る。
前駆後従の目さすく五町あすく續だけと既よもく定正主従ハちや白井の
城裏ハ二十町よ足らぬ道の程の並松原を過る折とそれバ一個の武士の浪人
皂蛇皮絹の單衣の申時をりて被く編笠をあくよれバ年の齢は定むべ
道の西くの左のさかる年キテ松の下の葛石よ尻せかく右ひよ會すも一ロの
大刀をやさう膝よ推立て忍地声をゆり立く世不千里の馬かひよあく只それを知る
伯樂を祀の今も鎮邪が劍加尼よあく只ことを知る良将加尼の惜うかよこの名
刀屠兒の肉俎よ衆せられをハ農婦よ鍋の炭を搔きん恨むぞしくとテ返し又うか
しと頻よひとすがりうける前走の雜色三人うち見く躰て立うそある奇怪あり。



何人を知らる。官領の狩倉より目今還らせある。左馬前より程近く笠をも
脱せ。尻えりをぬかす。刀を食ひて、ハ礼儀よ疎た白徒へとく。笠を脱捨てつゝね
拜三度。腰一叩懲せ。浮浪人ハ果敢々あく見えし。冷笑ひ噫
味やあが。燕准那。大鵬の志を知る。あん官領ハと貴妃が現汝達の主
君。貴妃とよやかるべ。あれども両官領ハ許我殿の舊老黨京都將軍比
家臣。貴妃ハ將軍を世よ貴妃のハ形。あれどもかく上天子のませう。
天子ハ無上至尊也。れどもかく上天子のませう。
月の神よ。あれは浮浪の武士。あれば主もかく家隸。官領。あれは恩徳。ひ
貴くもやべ。官領。あれは徳。あれは。せを渡えんの。この街道。挾なあ。只
是。一個の浮浪人。この樹下。想ひと。路の障。ある。の。ス辟。う。ち。と。ヒ。回。て。ひ。う
十郎。あく。ぬ。果て。其樹下。赴。浮浪人。よも。對。其許。ハ元。來。何。處。の人。を。
う。と。初。の。如。く。ゆ。高く。身。ハ。難。色。ふ。ま。も。そ。そ。り。と。大。膽。不。敵。の。癖。者。ぬ。づ。く。笑。づ。く。

傳人打玉付せ。と。敦園て立かうた。三方より。内懲えと競。程よ定正間。近く馬を進く。
駆。や。何。ぞ。彼鎮。りよと。制。き。せ。く。鎧際。と。往。する。松枝十郎。と。見。う。そ。云。と。仰。あ。
十郎。あく。ぬ。果て。其樹下。赴。浮浪人。よも。對。其許。ハ元。來。何。處。の人。を。
かく。も。官領。家の。み。向。せ。あ。と。先。使。と。立。れ。う。か。く。御。内。の。近。臣。松枝十郎。貞。至。
誘。え。ん。前。よ。ま。り。ゆ。と。く。と。急。せ。ハ。浮。浪。人。阿。と。応。く。食。し。る。刀。を。遽。く。腰。刀。よ。伸。
添。て。緒。を。解。く。笠。を。背。の。く。へ。一。間。許。投。退。け。て。初。く。面。を。頭。く。う。と。見。人。食。睛。を。
斜。め。く。遠。近。齊。一。れ。と。望。る。小。年。齡。ハ。二。十。と。の。と。肩。二。三。丈。過。べ。く。だ。面。色。百。一。て。鬚。鬚。
青。か。眉。ハ。秀。て。遠。山。の。如。眼。ハ。朗。り。と。叢。星。よ。似。う。隆。準。丹。脣。れ。の。一。齒。の。好。男。子。
月。額。の。延。黒。そ。襲。長。鬚。の。額。を。掀。歎。と。疑。る。客。儀。堂。ミ。神。表。凜。く。庸。人。か。ひ。ど。も。す。
け。畢。竟。こ。の。入。定。正。よ。近。づ。く。又。甚。麼。り。説。話。う。あ。と。ハ。次。の。卷。よ。解。分。る。と。を。知。ん。

里見八犬傳 第五輯 卷之三 終

